

ゆりがもめ

yurikamome



背後の木々も整備された武田耕雲斎等の墓所

敦賀水戸烈士遺徳顕彰会

会 長 河瀬 一治

敦賀の地で無念にも夢と破れた水戸烈士の方々の御霊をこれから先、二百年、三百年と御守りする事は我々の使命であると考えておりますし、是非とも後世に受け継いでいただきますようお願いいたします。

本年、烈士が収容された「にしん蔵」、歴史解説する「ガイダンス施設」が移設および新設されました。

今後に残しておく文化財として将来まで伝えられると確信致しております。

水戸烈士天狗党の一行が勅諭を願い、京都を指し、外国と戦い天皇を中心とした国づくりを進言する事を伝えようとしたのです。結果として無念ではありましたが、江戸から明治への時の流れを早めたと伝えられております。この行動は後に称賛され、新しい時代を迎える転換期となったのは間違いない事実です。

今から百六十年前に、ここ敦賀の地で無念の死を遂げられた水戸烈士茨城からの行軍中の戦いに戦死・病死された方々が祀られている松原神社・墓地を我々顕彰会（会員六十名）にて御守りし、毎年十月十日には御霊を鎮魂する「例大祭」を、関係各市からお越しいただき行っております。



新入会員のごあいさつ 蛭子 政喜



はじめまして、この8月に入会しました敦賀出身の蛭子政喜です。よろしく願います。

北陸新幹線の敦賀開業もあり約50年ぶりに地元に戻ってきましたが、街全体が大きく変貌、進化している事に関心を抱き、街全体の観光や歴史を身に付けて自己啓発をしたいと思いました。また、観光ボランティアの人とも金沢のある会で知り合い大変興味を持ち活動したいと思っています。

これまで、全国を仕事で廻り活動しましたが、敦賀の事は原発以外の事は残念ながら余り認知されていないようでした。

人生の残りの時間を地元で過ごす中で、生まれ育った街と地域に、市民として少しでも恩返しをしたいと感じ、そのために観光ボランティア活動に参加して敦賀の観光・歴史のことを国内外にPRして貢献したくガイドの活動に微力ながら参加して手伝いたいと思っています。

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

- 特別展 日本横断！運河計画 10月18（金）～11月24日（日）
太平洋側と日本海側を結ぼうとしてきた歴史において「運河計画」はその象徴の一つです。敦賀と琵琶湖間に運河を設置し、太平洋側に水運を繋げる壮大な計画でした。多くの計画段階の史料が残っており、海と共に栄枯盛衰の歴史を歩んできた敦賀の、知られざる歴史の一端が紹介されています。
- 企画展 行き交う人々、交わる文化 11月28（木）～令和7年1月13日（月・祝）
みなとまち敦賀の美として、鈴木松年「山姥図屏風」（寄託資料 真禅寺蔵）などが展示されます。

☆福井県立歴史博物館

- 特別展 越前の禅文化～大本山永平寺の文化財を中心に～ 9月21日（土）～11月4日（月）
越前という地域と、そこに根を下した禅文化について、大本山永平寺及びゆかりの寺院に受け継がれた貴重な文化財により紹介されます。道元禅師真筆の国宝「普賢坐禅儀」、重要文化財「正法眼蔵」はもとより、今回、現地でも一般観覧のできない「山門羅漢堂」内の羅漢像の初公開も見どころです。また、羅漢堂内部の高精細映像も上映されます。

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス内の「団体向け観光ガイド」から申込書をダウンロードし、必要事項を記入いただいた後、敦賀観光協会宛てにお送り下さい。

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167
FAX 0770-22-8197
URL <https://tsuruga-kanko.jp/>

ガイドメンバー募集

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に來られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056
敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

編集後記

毎年10月10日、敦賀水戸烈士遺徳顕彰会により、松原神社例大祭が執り行われています。1954年、顕彰会が設立され、武田耕雲斎等墓の清掃など保存・管理を担ってこられました。

1964年、松原神社百年祭を迎え、その翌年に敦賀市と水戸市が姉妹都市になりました。そして、姉妹都市親善友好少年交歓研修が始まり、現在も続いています。交歓研修において私たちは、新保の陣屋等を案内し、敦賀の人々の温かい対応をお伝えしています。

一方、紙面でも紹介しましたが「JOYJOY敦賀フェスタ」にガイドつるがとして初めて参加し、沢山の皆さんとの交流がありました。ブースでは「敦賀は鉄道と港のまち」と題したクイズを出題して回答していただきました。難しい問題もあり、皆さんパネルの資料をヒントに回答されていました。米澤敦賀市長にもブースにお越しいただきました。クイズにもチャレンジされヒントなしで全問正解でした！（将）

敦賀のみどころ

⑪

「水戸天狗党」慰霊の地

「水戸天狗党」は、朝廷に尊王攘夷の素志を訴えるため、水戸から京都へはるばる本州中部を横断し敦賀まで来た時、明治維新目前で、幕府に降伏し処刑された。敦賀の人々は、当地では戦争をしていない彼らに、当初より同情的な気持ちがあったという。

敦賀での「水戸天狗党」

彼らは、一橋慶喜（水戸藩主徳川斉昭の七男・のちに15代将軍）を頼りに、元治元年（1864）11月1日から、武田耕雲斎を総大将として千人余りが西上行軍し、12月11日、今庄二ツ屋から雪深い木ノ芽峠を越えて敦賀新保に着き陣を置いた。

その後、幕府追討軍包围の中、加賀藩を仲介に交渉が続く。この間、追討軍総帥になっていた一橋慶喜とのやり取りを経て、総攻撃が伝えられ、世に名高い「新保軍議」後ついに降伏状を提出した。

そして、彼ら823人は加賀藩により、本勝寺・本妙寺・長遠寺（元町）に収容された。丁寧な扱いであったという。しかし、翌年1月27日には幕府へ引き渡され、舟町（蓬萊町）の鯉肥料用荷蔵十六棟に監禁。劣悪な環境で冷酷な扱いを受けた。この時、敦賀の人々は、役所などにつめかけ処遇の改善を求めたと

いう。さらに、2月1日より永覚寺（金ヶ崎）の仮白洲で簡単な取り調べの後、武田耕雲斎以下353名の斬首刑が来迎寺野で執行された。日本刑罰史上、他に例を見ない大量処刑だという。ほかに、遠島137名、水戸藩渡し130名、追放187名。少年11名は「永厳寺」（金ヶ崎）預かりとなった。この寺預かり少年11名に材をとって、「日本海作家」同人上坂紀夫氏が、「髪」という感極まる短編を発表している。

人の尊い一命が、人為的に引き起こされることで奪われることがあつてはならない。このようなことは二度と繰り返されてはならない。

処刑後、当然の如く、「水戸天狗党」に同情する声はだんだん大きくなっていくばかりであった。まもなく、敦賀の諸寺院は、「水戸天狗党」の人々の法要を営んだ。多くの人々が供養につめかけ、墳墓は弔いの人々でいっぱいになった。また、松原神社創建のきっかけをつくった行壽院峻三は、自ら営む修験行壽院において初めて彼らの霊を祀った。

ここ敦賀において現在も絶え間なく続けられる「水戸天狗党」への慰霊。処刑された人々と病死者や戦死者合わせて411柱を祀る松原神社では、毎年10月10日、水戸からも多くの関係者が訪れ「例大祭」を挙行している。

また、敦賀市と水戸市は、昭和40年（1965）に姉妹都市となり、毎年小学生の「姉妹都市親善友好交歓研修」が行われている。

松原神社例大祭

10月10日、青天の下、敦賀松原神社で例大祭が執り行われました。この例大祭は、敦賀水戸烈士遺徳顕彰会が毎年この日に開いています。

水戸天狗党は、尊皇攘夷を掲げ、元治元（1864）年に挙兵しましたが、敦賀新保で幕府側に降伏し、来迎寺の西側に位置する来迎寺野で、353名が処刑されました。

明治11年（1878）明治天皇が北陸に行幸した際、祭祀料500円が下賜され、その10月10日を祭典日としている。

境内には、天狗党が監禁された舟町の鯉蔵16棟の内1棟が、保存を希望する市民運動を受けて移築され、水戸烈士記念館（旧鯉蔵Ⅱ市指定文化財）となっていた。現在、松島広場に移築されている。

境内の多数の梅の木は水戸市から献木された「偕楽園」の梅である。早春の寒気の残る中、百花にさがけて開花し、強い香気をはなつ気品ある姿は「水戸天狗党」を想わせる。（松村 由利子）

（参考：「水戸天狗党敦賀に散る」敦賀市立博物館発行）



ゆかりの史跡
○武田耕雲斎本陣跡（市指定史跡）：新保地区にあり、当時問屋だった塚谷家の屋敷の一部で書院造。耕雲斎が本陣を置き、加賀藩と会談を行った。「新保陣屋」ともいう。

（松村 由利子）



現在の墳墓は、大正3年（1914）の50年祭時に改修された、約30m四方、高さ約4mの方墳型の塚である。

また、このお墓の向かって右前には、社殿のかわりに建てられた松原神社碑（明治16年建立で、碑表上部篆額が有栖川宮熾仁親王の筆）が、明治31年まで神社として祀られていた。この碑は現在松原神社境内に移されており拝見できる。

○松原神社：明治8年（1875）創建。明治16年（1883）神社碑建立。明治31年（1898）旧社殿完成。大正3年（1914）50年祭を契機として現在の場所に移転。

ガイドするがの取り組み紹介

水戸市からの
小学生使節団への
ガイド

8月23日から25日の日程で、水戸市から小学6年生16人（指導者6人）の使節団が敦賀市を訪れ小学生と交流を深めました。30度を超える暑さの中、みんな揃って元気に新保の陣屋にやってきました。

天狗党がとても苦労してこ来たのは雪深い冬の時期、村人たちは最初は怖かったけれど、質素ながらも温かい汁物を出したことを紹介すると、そんな情景を想像している様子で、ガイドの説明にみんな真剣に耳を傾けてくれました。

小学生の頃から姉妹都市の間で使節団が行き来するのはとても良いことだと思います。墓に眠る天狗党烈士を偲び



子供達にもそれを言い伝えたいことが大切なことだと思います。また、浪士が収容された鯉蔵は市民からの保存の要請が有った事や浪人祭りとして天狗党を偲ぶ祭りを続けていることもご紹介していきますと考えています。

武田耕雲斎等墓、水戸烈士記念館(旧鯉蔵)の整備完了に伴う説明会

水戸烈士記念館（旧鯉蔵）は、天狗党の浪士が収容された歴史を持ち、戦後、その撤去が計画されるなか、保存を希望する地域住民の運動を受け、松原神社境内に移築されました。令和になって移築・修復工事が行われ、今回、武田耕雲斎等墓の整備完了とともに公開されたものです。

私たちはガイドするがは、この施設案内も行うことから、敦賀市文化振興課の中野主幹より、全体の整備の方針を始め、鯉蔵の内部の構造や造られた時代など詳しい解説を受けました。



本フェスタは、市民活動の活性化を目的に、各団体の活動を発表する機会を作り、交流を深め、市民に活動内容を知ってもらい理解を深めてもらうことを目的にしています。今年のテーマは『さあ出かけよう、敦賀のかげやき再発見！』で、市民文化センターときらめきみなと館で行われ、作品創りを体験する姿や、ダンスなどのステージ発表を楽しむ姿が多く見られました。

観光ボランティアガイド



を留意し、ブースに來られた多くの方々との交流を楽しみ、港と鉄道の歴史をご紹介しました。このような取り組みも私たちの活動紹介の場として大変重要だと感じました。